

豊かに伝えあう力を育む授業づくり

副題

～「情報活用能力を育成するためのカリキュラム」の作成を通して～

学校名 **川崎市立平小学校**

所在地 〒216-0022
神奈川県川崎市宮前区平6丁目5-1

ホームページ
アドレス <http://www.keins.city.kawasaki.jp/school/original/ke208001.html>

1. 研究の背景

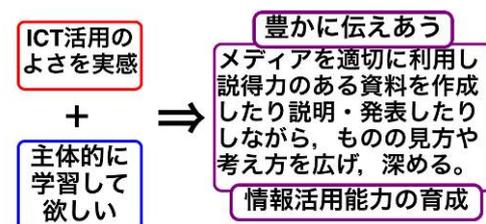
本校では、平成 21 年度までは国語科で「学ぶ喜び 伝える力 受けとめる心」をテーマに、平成 22・23 年度は川崎市教育委員会より研究推進校(社会科)の指定を受け、「豊かなかかわり合いを通して、ものの見方・考え方をひろげよう」というテーマで校内研究を行ってきた。特に社会科の研究では、「資料を活用した授業モデル」を作成し、提示された資料を子どもたちが読み取り、それを根拠とした話し合い活動の充実をねらって研究を進めた。しかしながら、教師が用意した資料が話し合いの中心となっていることが多く、子どもたちが自主的、積極的に学習に取り組んでいたと言えるかどうか課題として残された。

一方で、本校では川崎市教育委員会の方針を先取りする形で、50 インチテレビに加え、教材提示装置やワイヤレスペンタブレット等の ICT の整備を積極的に進め、ICT 活用の日常化を図ってきた。助成以前、すでに ICT 活用のよさを感じている教師が多く、ICT 活用の基盤がある本校で、教育の情報化の理念に沿った「情報活用能力を育成するためのカリキュラム」を作成することは、本校の子どもたちに情報活用の実践力を確実に身につける上で大きな成果が期待できるものと考えていたのである。

2. 研究の目的

平成 24 年度は「メディアを活用しながら積極的に学びあう」という情報教育的な子どもたちの活動イメージを原点として、新しい研究をスタートすることにした。そして、具体的にめざす子ども像を「メディアを適切に利用し、説得力のある資料を作成したり説明・発表したりしながら、ものの見方や考え方を広げ、深める。」姿とし、「豊かに伝えあう」姿として定義した。このことによって、「子どもたち自身が自分の思いや考えを伝えるために、主体的に様々な資料を集めたり、わかりやすい資料を作成したりするなどの学習活動を通して、情報活用の実践力を確実に定着させること」が目標となった。そこで、研究テーマを「豊かに伝えあう力を育む授業づくり ～『情報活用能力を育成するためのカリキュラム』の作成を通して～」と設定し、情報活用の実践力を中心としたカリキュラムの作成に取り組むこととした。

豊かに伝えあう力を育む授業づくり 「情報活用能力を育成するためのカリキュラム」 の作成を通して



3. 研究の方法

各教科の内容に含まれている「情報活用能力を育成する」単元を抽出・整理し、授業実践から得られた知見を生かして「情報活用能力を育成するためのカリキュラム」を作成した。その過程において、研究テーマの達成に向けて以下の視点でアプローチしていった。

- (1) 見やすい, わかりやすい, 使いやすいカリキュラムづくり
- (2) 日常的に積み重ねていく実践と研修による授業改善
- (3) 情報活用能力を育成するための情報環境の整備

4. 研究の内容

(1) 見やすい, わかりやすい, 使いやすいカリキュラムづくり

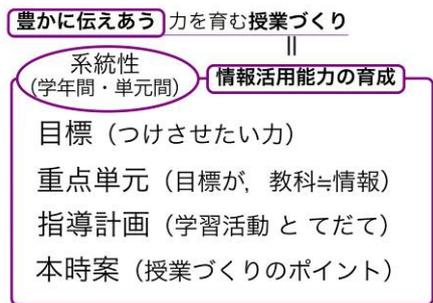
私たちは、「豊かに伝えあう力を育む授業づくりは、情報活用能力の育成を考えていくことによって達成できる」と考え、研究をスタートさせるときに、1つの仮説を設定した。それは、「各教科・領域に点在している情報活用能力、特に情報活用の実践力に関する部分を洗い出し、項目ごとに系統立てて整理していけば、現行指導要領の中で、子どもたちに情報活用の実践力を確実に身につけさせることができるだろう。」ということである。情報活用能力の中でも、とりわけ「情報活用の実践力」に焦点を絞ったのは、小学校における教科の学習活動と重なっている部分が多いと経験的に感じていたからである。

本校のアドバイザーである野中教授(横浜国立大学)の言葉を借りて言い換えるなら、「現行の学習指導要領の枠組みの中で、すべての教師が情報活用能力という軸を意識して教科の授業を進めること、どの学校でも無理なく実施できるカリキュラムの土台」として提案できるものを目指した。このことをシンプルな言葉で表現したのが、「見やすい, わかりやすい, つかいやすい」なのである。

そのカリキュラムの内容について、授業づくりをしていく上で必要な構成要として4つ設定した。

- 子どもにつけさせたい力としての「目標」(「平小のスキル」)及びその「育成イメージ」
- 単元における教科の目標と情報活用の実践力がほぼ一致する単元である「重点単元」
- 授業案を計画するために学習活動やてだてが整理されている「指導計画」
- 1時間ごとに授業づくりをする時の視点がわかる「本時案」

これらが学年間・単元間の系統性を持ち、「めざす子ども像」の達成を図れるように、カリキュラムの内容を検討していった。

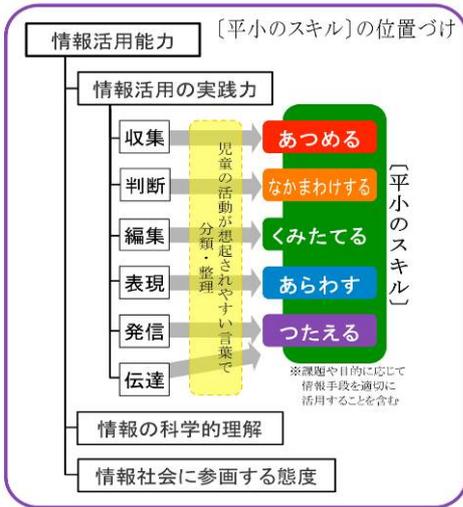


わたしたちがめざす「豊かに伝えあう」子ども像

5・6年	メディアを適切に利用し	説得力のある資料を作成したり	説明したりしながら	ものの見方や考え方を広げ 深める
3・4年	メディアを選択し	わかりやすい資料を作成したり	発表したりしながら	ものの見方や考え方を広げる
1・2年	メディアに慣れ親しみ	簡単な資料を作成したり	見せたりしながら	ものの見方や思いをもつ
センター級	一人一人に応じたメディアの有効活用を通して できる・わかる喜びを感じる			

① 「平小のスキル」

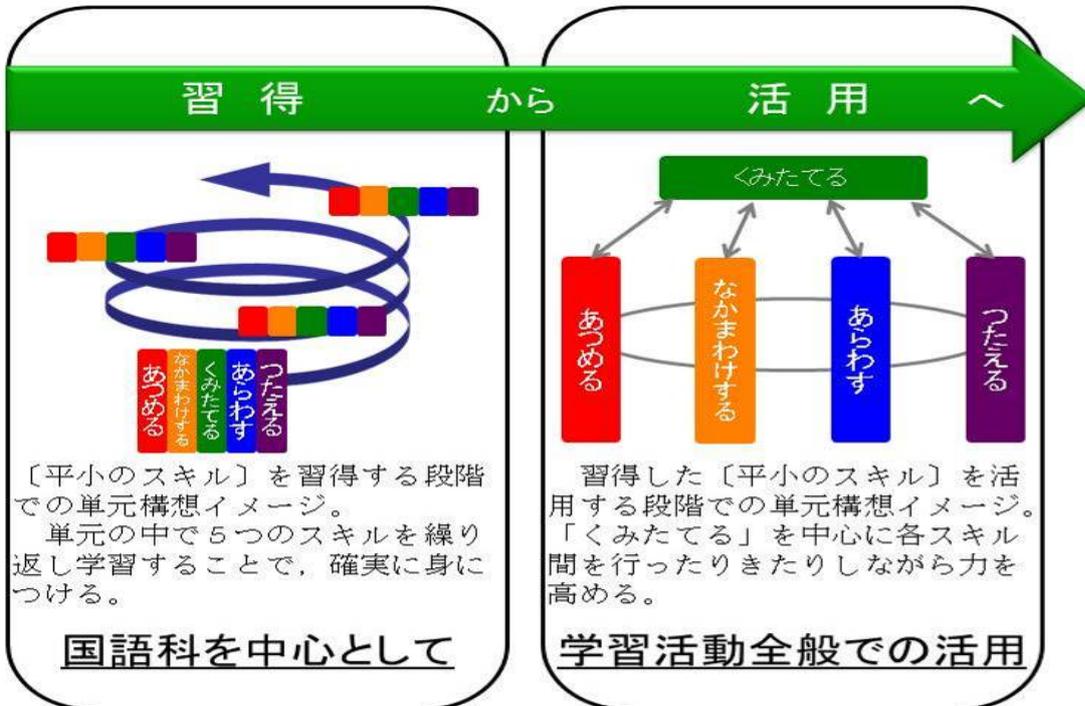
情報活用の実践力を構成する項目について、子どもの活動や学習場面がイメージしやすい
 [あつめる, なかまわけする, くみたてる, あらわす, つたえる]の5つの言葉にまとめたもの。



〔平小のスキル〕

<p>○ 自分の考えや思いを相手に伝える。</p> <p>高: 自分の考えや意図を明確にして効果的に伝える。 高: 発表者の意図を考えながら情報を受けとる。 中: 自分の考えや思いが伝わるように工夫して伝える。 低: 自分の考えや思いを発表する。 セ: 自分なりの表現方法で伝える。</p>	<p>キーワード</p> <p>発信 受信 交流 説得力</p>	つたえる
<p>○ 自分の思いや考えを表現する。</p> <p>高: 表・グラフ・画像等を効果的に利用して表現する。 高: 課題に沿った形式や方法を用いて表現する。 中: 自分の思いや考えを言語化する。 低: 自分の思いや考えを絵や言葉で表現する。 セ: 自分なりの表現方法であらわす。</p>	<p>キーワード</p> <p>表現方法 相手意識</p>	あらわす
<p>○ 情報の効果的な活用を考え、課題に沿って、内容を構成する。</p> <p>高: 発表方法を意識し、情報の効果的な活用を考えて内容を構成する。 中: 表現方法を意識し、比較・分類した内容を課題に沿って構成する。 低: 伝えたいことを意識し、「はじめ・中・おわり」の順序で内容を構成する。 セ: 「なかまわけ」されたものをまとめたり、並べかえたりする。</p>	<p>キーワード</p> <p>構想 構成 編集 順序</p>	くみたてる
<p>○ 課題に沿って、情報を整理する。</p> <p>高: 情報を比較・分類・関連づけして整理する。 中: 情報を比較したり分類したりして整理する。 低: 情報をもつ特徴をみつけて整理する。 セ: 比べて相違点を見つける。</p>	<p>キーワード</p> <p>整理 分類 比較 関連づけ</p>	なかまわけする
<p>○ 課題に沿って、必要な情報を集める。</p> <p>高: 適切な手段を選んで情報を集める。 中: インターネットやアンケートを使って情報を集める。 低: 体験・本・インタビュー等で情報を集める。 セ: 周りから聞いたり、体験したりして情報を集める。</p>	<p>キーワード</p> <p>収集 取材 検索</p>	あつめる

〔平小のスキル〕の育成イメージ



② 「平小のスキルを育成する重点単元一覧」

情報活用の実践力を育てられる単元を教科・領域の中から抽出して整理したもの。開発当初は、〔国語科・算数科・社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間〕を対象に制作したが、習得的な内容を優先した結果、国語科を中心としたものになった。

③ 指導計画と本時案

「平小のスキル」育成を目的として作成したので、教科としての内容を前提としつつも、情報教育的な視点に絞って構成している。特に、指導計画では学年間の系統性を意識できるように、前学年と次学年において内容のつながりがみられる単元を表記した。

○指導計画の構成要素： 学年，教科，単元名，単元で重点をおく「平スキル」，学習活動の流れ，各学習活動において育成する「平小のスキル」，支援，評価

○本時案の構成要素： 学年，教科，単元名，教科における評価規準
学習活動の流れ，学習活動の単位，
教科における本時の目標，本時でつけさせたい「平小のスキル」，
「平小のスキル」育成の視点で学習に関するポイント，
てだて（提示するもの，使う道具，備考，だれが活用するのか）

本研究においては、「平小のスキルを育成する重点単元一覧」に掲載した全単元の指導計画と、平成 26 年 1 月 24 日に開催された研究報告会における公開授業の本時案について、上記の構成要素で作成した。なお、カリキュラムの内容は、本校のウェブサイトからダウンロードすることができる。

(2) 日常的に積み重ねていく実践と研修による授業改善

平成 24 年度には 10 本の授業研究と 27 本の授業公開、25 年度には 17 本の授業研究と 7 本の授業公開を行った。そのほとんど全てにおいて、授業を行った学年毎に先行授業を実施し、教師全員が日常的に関わっていく形で内容の精査を進めていった。また、授業研究会における研究協議や研修会では、ワークショップの形式が取り入れられ、提案されたテーマに沿って課題解決していく形で進められた。これには、教師自身が協働的な活動の中で情報活用の実践力を発揮していく体験そのものが、めざす子ども像の具体的な活動イメージと重なることを予想し、意図的に導入されたという背景もある。

(3) 情報活用能力を育成するための情報環境の整備

情報活用能力を日常的に育成していくために、日常的に使うことを意図して情報環境を整備した。

○普通教室： 50インチデジタルテレビ*，ノート型コンピュータ*，教材提示装置，DVD プレーヤー

○各学年： ホワイトボード(A2 サイズ)※1 クラス 8 枚程度(4 人あたり 1 枚)

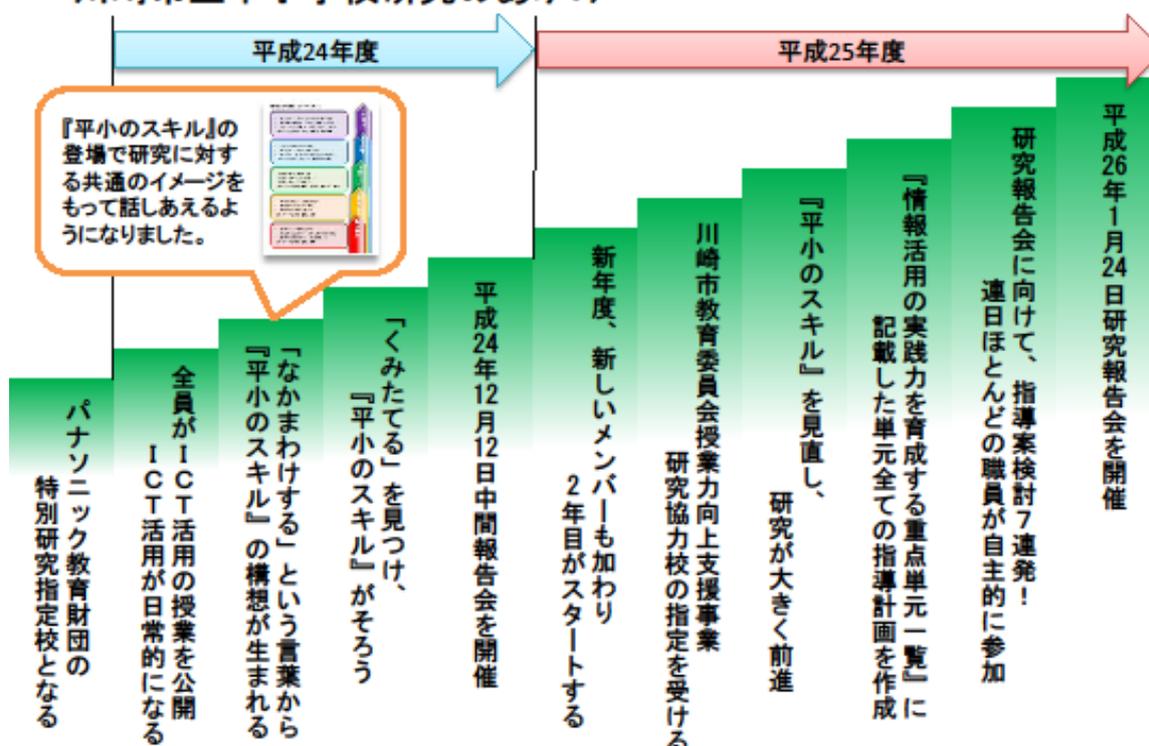
○全クラス： デジタルカメラ(各 1 台)

○タブレット型コンピュータ (OS:Windows8[10 台]*※無線 LAN 経由で川崎市の広域イントラネットに接続，iOS [24 台]※インターネット接続無し)

○コンピュータ室： ノート型コンピュータ(40 台)* ※ *印のものは川崎市による整備

5. 研究の経過

川崎市立平小学校研究のあゆみ



平成24年度(1年目) ～いろいろな教科で～			平成25年度(2年目) ～国語科を中心として～		
回・日付	学年・教科	授業者	回・日付	学年・教科	授業者
第1回・5/10	5年・社会	福山 創	第1回・5/9	2年・国語	加納 聖子
第2回・6/22	3年・国語	濱家 恵以子		3年・国語	須藤 知美
	4年・算数	水野 沙由紀	5年・国語	田中・岩崎	
第3回・7/6	全学年・ICT	全員	第2回・6/20 授業力向上 公開授業	2年・生活	菜島 千愛
	1年・国語	佐藤 保		4年・国語	濱家 恵以子
2年・生活	森 朋子	6年・国語		江端 珠代	
第4回・10/26	6年・国語	田中 啓介	第3回・7/4	1年・国語	河合 奈都紀
第5回・11/16	センター級・生活単元	センター級担任		4年・国語	渡辺 佳菜子
中間報告会 12/12	1年・国語	菜島 千愛		5年・国語	岩崎 幹
	2年・国語	山本 麗那	第4回・9/12 授業力向上 公開授業	2年・生活	加納 聖子
	3年・理科	岩崎 幹		3年・国語	武野 結基
	4年・算数	松本 隆太		5年・国語	田中 啓介
	5年・国語	柳田 圭子	第5回・10/31	1年・国語	若狭 美加
	6年・総合	田中 啓介		3年・国語	須藤 知美
	センター級・生活単元	センター級担任		6年・国語	石渡 菜穂子
第6回・1/25	5年・国語	武野 結基		センター級・生活単元	センター級担任
第7回・2/22	1年・国語	佐藤 保	研究報告会 1/24	1～5年 国語 6年 総合 センター級 生活単元 (全7クラス)	
	6年・社会	長澤 拓也			

6. 研究の成果と課題

<成果>

- 情報活用の実践力を構成する項目について、子どもの活動や学習場面がイメージしやすい言葉で「平小のスキル」としてまとめることができた。また、情報活用の実践力を育てられる単元を教科・領域の中から抽出して整理した「平小のスキルを育成する重点単元一覧」を作成し、そこに掲載した全単元について指導計画を作成した。さらに、授業研究の積み重ねによって得られた知見を「平小のスキルの育成イメージ」や本時案の形式にまとめることができた。こうして実践を通して練り上げられてきたカリキュラムなので、学校現場で生かしやすいものとなったのではないかと考えている。
- 「平小のスキル」育成を念頭に置いて日常的な授業実践と研修を重ねた結果、学校全体で教師間の協力関係が深まり、活発に知見が共有されるようになった。このことで、教師個々の授業改善が進んだ。学校全体としてもチームワークが向上し、職員全員で取り組む学校作り、という気風が高まった。
- 情報環境の整備が進んだ。教材提示装置が全教室に配置され、デジタルカメラやタブレットコンピュータ等の ICT が授業で日常的に活用されるようになった。また、全学級にグループ活動用のホワイトボードが配布された。これらの情報環境を従来の環境と合わせることで、協働的な学習場面で活用したり、課題解決の場面で主体的に活用したりしようとする子どもの姿が日常的に見られるようになってきた。こうしたことから、私たちがめざす子ども像の実現に向かって大きく前進できたのではないかと考えている。

<課題・展望>

- 実質的には「国語科における情報活用の実践力」の育成を中心に研究に取り組んできたが、その成果は他教科にも波及していることを多くの教師が実感している。今後は、カリキュラムの内容を実践しながら検証と見直しを行っていきたい。また、本校の研究成果を他校に伝えていだけでなく、情報活用能力全般や他教科へと取り組みの対象を広げていくことが必要だと考えている。

7. おわりに

平成25年1月24日の研究報告会が終わった後、来年度の研究をどのように進めていくかという研究推進委員会、校内研究全体会を行った。2年間、情報教育の研究を進めてきたものの、敢えて来年度からのことは白紙の状態から話し合いを行った。職員からは「重点単元の見直しをしたい」「今年度とは違う学年で、どのような授業ができるか検証してみたい」「『平小のスキル』を活用した授業をやってみたい」「タブレット PC を使ってみたい」など、前向きな意見が出され、全員一致で、来年度も今年度の研究を検証していくことになった。

情報教育？情報活用能力？という状態から、試行錯誤しながら進めてきた研究であるが、その甲斐もあって、本校ならではのカリキュラムを成果として作り上げることができた。本当に全職員が「平小のスキル」を共通理解し、子どもの学習する姿からその有効性を実感したからこそ、情報活用の実践力、そしてそれが学年ごとに系統的に積み重ねることの大切さを学ぶことができたのだと考えている。

<参考文献>

- ・「教育の情報化に関する手引」「教育の情報化ビジョン」(文部科学省)